



2006年度第5号

やまなみ

サンフランシスコ日本語補習校 理事会通信

第2回、第3回理事会報告 (喜多理事)

6月8日に今年度第2回目の理事会が行われ、さまざまな議事に関して審議されました。西村教頭からの学力調査結果報告の後、城田、デイシー各主幹より現状報告がありました。岩崎校長からの学事報告、北村保護者会代表会長からの保護者会報告の後、幼稚部設立検討委員会からの現状報告、現地校でのクレジット取得の為の委員会設置が承認され、教員確保に関する対応策ではビザ・サポートの可能性を視野に再度調査する事が確認されました。

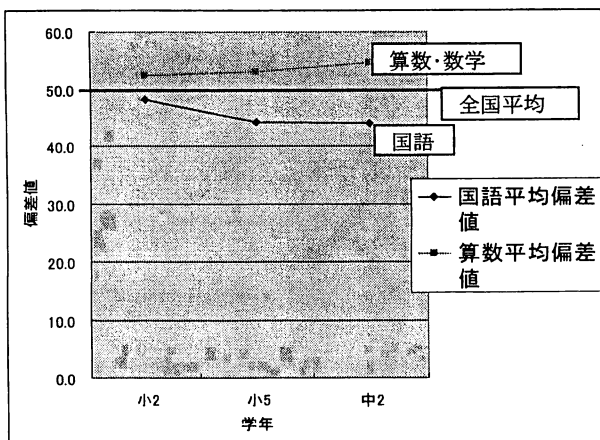
9月21日の第3回理事会では、冒頭、高等部 SJ 校の太田教頭より来年度の高等部設置教科及び入学試験について説明があり、その後、集中研修の計画や、幼稚部組織案等が報告されました。また、アフタースクールプログラムの実施案も再度検討され、早期実施を前提に組織編制を行う事で意見が一致しました。

標準学力検査の結果 (西村教頭・木下教頭)

I. 標準学力検査について

- ① 目的
 - ・ 本校の実態を把握し、今後の資料とする。
 - ・ 検査結果を通知し、家庭学習の資料とする。
- ② 実施日： 平成18年4月15日
- ③ 実施学年： 小学2・5年、中学2年

II. 実施結果の報告



1. 全体的な傾向

算数(数学)は各年代において、日本の子どもたちの成績を上回り、学年が進むにつれてその傾向は顕著になっている。

国語については、逆に日本の子どもたちの成績を下回っており、学年が進むにつれてその傾向が顕著になっている。日本語に触れる機会が少ないためやむをえない面もあるが、意識的に日本語環境を整える必要性も感じる。

2. 算数(数学)における課題

算数(数学)の力は、全体的に日本の子どもたちを上回

っている。劣っているものを見ていくと、日本語力が原因であるケースが目立つ。

小2の問題では、「10は7と□をあわせただけ」のような問題は劣っているが、この知識の応用となる「6+7」など繰り上がりのある計算は良く出来ている。前者は日本語力によるものと考えられる。また、小5においても、例えば円についての基本用語(半径など)や億・兆という言葉に関する問題などの出来が良くない。中2では、計算法則の名前や立体の名前、項・係数などの専門用語に関する問題で弱さが現れている。

日本語に関する躓き以外では、図形に関する問題(各学年)や表・グラフを見て比例・反比例を判断する問題(中2)などに力を入れる必要がうかがえた。

3. 国語における課題

算数科においてあげられた日本語の躓きの傾向は、国語科でも見ることができる。

その顕著な例として、無答(答えを書かない)率が非常に高い問題がいくつか見られることである。例えば、小2の本文から電車の仕事のやりかたを見つかる問題では、このやりかたという言葉が抽象的で意味がわからず答えが書けなかったのではないかと考えられる。また小5の説明文の問題では、各設問に対して答えを選び出していくのだが、問題文自体が難解だったのか、どの設問も無答率が40%程度見られた。

また、接続詞、助詞、指示語など言語事項を問う問題や漢字の読み書きでは非常に低い正解率であった。これは、言葉や漢字は学習していても、文を読んだり書いたりする機会が少ないためにその言葉を使いこなせず、しっかりと定着が図れないのではないかと考えられる。

しかし、本校の子どもたちは、日本の子どもたちに比べ、決して読み取る能力が低いわけではない。読み取る以前に、語彙力が乏しいこと、日本語独特の言い回しや文章表現に慣れていないことがこの結果を生んでいると考えられる。

これらの結果からもわかるように、補習校の授業だけでなく、毎日の生活の中でも日本語に触れる努力が必要である。そのためには、学年相応の書物や美しい日本語で書かれた書物、時には少し難しいものにも挑戦して読むことも必要である。また、書くことで自分の思いがより明確になる。その書くことを億劫がらずに続けていくことも必要である。

小学部理事視察報告

サンフランシスコ校 (藤井理事)

去る9月23日、糸井理事、喜多理事、竹内理事、渡部理事と共にサンフランシスコ小学部の3年生から6年生の授業を拝見させて頂き、先生方と懇談いたしました。校長、教頭、主幹と新体制の下、教育目標「確かな力を身に付け、国際社会に活躍する児童・生徒の育成」に向かう先生方の意欲を感じました。

特に、英語圏で生活する児童に、日本語での学習に集中させることは容易なことではないですが、授業に創意工夫し努力されている先生方に、とても感心させられ、私自身も持つ親として感謝致しました。プロジェクト

一を使った授業には、感嘆の声も上がりました。また、先生方の研修の報告を伺い、これからも補習校の教育の向上を確信致しました。

サンノゼ校（北野理事）

授業参観が6時間目ということもあり、生徒は集中力を失っているかと思いましたが、最後まで活発に手を挙げ、意見を述べ、元気に授業に取り組んでいる姿がとても印象的でした。先生方も様々な工夫をして生徒が集中して学べるように努力されていました。授業後に、今回視察に参加させていただいた三人の理事に元気な声で「さようなら」を言って下校した多くの生徒達も印象的でした。

懇親会では、生徒全員により良い教育をするためにクラスの児童数を減らしたり、担任に保護者のボランティアを含むアシスタントをつける、プリントの配布をウェブ等でダウンロードできるようにする、生徒の日本語力の差がどうしてもあるため 目的別クラス編成を早期に導入するなどの意見をいただきました。理事会で対応できる課題に関しては前向きに検討する事を約束し、懇親会を終了しました。

新図書システムについて

（池田理事）

サンフランシスコ日本語補習校小学部のパソコンによる図書の貸し出し管理システムが10月からバージョンアップされました。新しいシステムでは補習校データベースシステムとの連携によって、保護者および生徒情報の管理がより簡便に行えるようになりました。本年度より運用を開始した補習校データベースシステムは、みなさんにご利用いただけているものと思います。補習校データベースシステムを活用することで各御家庭に関わる事務処理を軽減することができます。もしご利用がまだでしたら、補習校ウェブサイト (<http://www.sjlc.org/>) のトップページにある「データベースログイン」をクリックして、ご自分の情報を確認してみてください。（注：アクセスにはユーザ名とパスワードが必要です。）

今回の図書システムのバージョンアップでは、図書委員あるいはシステム管理担当者の管理負担がずっと軽減されます。これまでは転出入者がある度に図書システムの情報を人の手で変更して来ました。学年始めの生徒情報の更新作業となると小学部全学年になるので作業量もかなりになります。バージョンアップ後はこれらの処理が補習校データベースシステムからのデータの移動だけで済むようになり、人の手を煩わせることがほとんどなくなりました。データの移動はインターネットを経由して行われますが、通信は暗号化されているので他人に見られるという心配はありません。また、補習校データベースシステムには各御家庭の住所や電話番号などの個人情報として扱いに注意すべき情報も含まれますが、図書システムで移動するデータはお名前、および各生徒と保護者の関連情報だけに絞られています。

現在各補習校校舎にはインターネットアクセス環境がないため、残念ながらその場でデータを更新ということができません。図書委員やシステム管理担当者があらかじめデータベースシステムからUSBメモリなどにデータを移動しておき、毎週土曜日に図書システムのデータを更新するようにしています。

このような手間はあるにせよ、このバージョンアップで図書システムに関わるボランティアの方々の負担は減るものと考えています。そして図書システムが使いやすくなり便利になることが、ひいては子供たちの日本語の本に触れる機会をより増やすものと考えています。サンフランシスコ日本語補習校の図書システムはこれからも進化しつづけます。

アフタースクールプログラム報告

（松波千春：放課後クラブ・アドバイザー）

今年度集中学習期間中、小学部サンノゼ校では1・2年生を対象としたアフタースクールプログラムが試行されました。参加児童は計18名。授業終了後から高学年児童の授業終了までの約2時間に渡り、日本で親しまれている歌や、カルタ・百人一首などの日本の遊びの他、家庭にあるものを使っての楽器作りや工作発表などを通じて、充実した10日間をすごしました。担当の方およびボランティアの方々、子供たちのために楽しい時間を提供していただき、ありがとうございました。

さて、集中学習中の経験を踏まえ、アフタースクールプログラムは「放課後クラブ」と名を変えて、この秋よりSF・SJ両校にて試行されることとなりました。「放課後クラブ」では日本の文化的側面を同年代の友達と一緒に楽しく経験することを主旨としています。学校の授業の補足や宿題の手伝いなどは一切行いませんのでご了承ください。詳細については10月中旬、小学部1・2年生を対象に応募要領を配布させていただきます。尚、定員は各校20～25名となります。

中学部・高等部主幹新設について

（村山理事長、岩崎校長）

本年4月より、派遣教員の定数削減を受けて小学部においては主幹を設置しました。皆様方のご理解により、小学部の主幹体制も定着の様が見られようになってきました。しかしながら、中学部・高等部においてはSF校の派遣教頭の中・高兼任、SJ校においては派遣教頭の小・中兼任等で管理運営上支障を来すこともありました。

そこで、中・高部にも主幹を設置し均衡のとれた学校体制を整え、体力のある自立できる補習校創りを目指して下記のように本校の組織を改変実施することをお知らせいたします。

尚、この措置によって一部の教科担任の変更はありますが、生徒に対する指導内容の変更はありません。

1 中高部組織の一部再編の目的

① 中学部・高等部に学校管理・運営の専門職を置き、現地採用の管理職による管理・運営の強化を推進します。

② 派遣教員は、本務である教育実践についての指導・助言業務を拡大し、研修支援体制の強化に努めます。

2 本年度後期再編の要点

① 高等部教頭を廃止して中高部に主幹を置く。

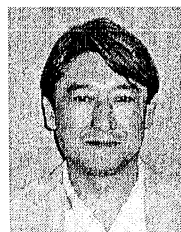
② 中学部と高等部を中高部主幹の管理下とし、各校共中高一貫校とする。

③ 主幹は派遣教員の指導の下、当該校の管理・運営に当たる。

④ 主幹は職務規程に基づき、管理下職員の出遇及び任免等の人事関係の具申権を有する。

主幹紹介

牛島宣仁主幹（中高部サンフランシスコ校）の挨拶



今年度後期からの新体制に伴い中高部サンフランシスコ校主幹に就任し、これまでとは少々異なる角度で生徒たちと向き合うことになった。この話が本格化し始め、どのような事を見据えて行こうか考えていた。そんな矢先、16年前の本校高等部修了生2人と再会する機会があった。

当時手を焼かせた2人が素敵な大人となり、社会の第一線で活躍している様子が窺え、何だか眩しかった。そ

の彼らが補習校時代は本当に楽しかったと言った。また、こうして酒を酌み交わす付き合いができるようになって、「先生と生徒としての仲はいつまでも変わらない。」とも言った。僕は彼らの人生で大きな位置を占めているという補習校での数年間に居合わせる事ができて、嬉しく、そして誇らしく思った。

現在本補習校には千人を超える児童、生徒たちが学び、考えながら、それを彼らの人生の一時期に刻み込んでいる。この時期の経験や出会いは彼らにとって何物にも代え難い宝になると信じている。彼らが将来持ち続け、誇りを持って広く伝えて行ける何かを育てることができ環境を揺るぎないものにすることが我々の責任ではないかと考える。そんな責任を踏まえ、主幹となった今、その大役に意を新たにしている。

太田正主幹（中高部サンノゼ校）の挨拶



今年度後期からの中高一貫体制への組織変更にもなつて、中高部サンノゼ校の主幹の仕事をしていただくことになり、身の引き締まる思いです。補習校の基本方針や教育目標などに基づいて作成しました中高部サンノゼ校の様々な課題に対し、前期までの高等部管理の経験を活かして積極的に取り組み、生徒が明るく元気よく補習校で

学べるような環境作りに努めてまいります。さらに、新体制の中高部では、今まで以上に保護者の皆様のご指導御鞭撻をいただかなくてはなりません。ご協力の程、よろしくお願ひいたします。

2社より寄付金

キッコーマン・インターナショナル様より、教員研修費用として\$1,500、うつみカイロプラクティック様より、図書用として\$100の寄付金を頂きました。厚く御礼申し上げます。

当校ホームページに表彰状

第4回全日本小学校ホームページ大賞（J-KIDS大賞2006）の選考にて、当校のホームページが在外日本人学校において優秀な小学校ホームページとして認められ、東京にある実行委員会事務局より表彰状を頂きました。

eScrip参加のお願い

先日チラシにて配布し、また先月号やまなみでも紹介しました eScrip の募金活動へはもうご参加頂けましたでしょうか。登録はいたって簡単です。www.escrip.comへログオン後 GroupID 500004286を入力し、補習校の名前を確認、後はスクリーンの指示に従って登録するだけです。未登録の方々はこの機会に是非ご参加ください。

事務局よりお知らせ

10月、11月の主な行事予定

月	日	行事予定
10	7	後期始業
10	21	授業参観・個別懇談（中・高部）
11	4	授業参観・個別懇談（小学部）
11	18	後期中間テスト（中・高部）
11	25	サンクスギビング休暇

イヤブック写真撮影予定日

月日		対象
9/30	午前	小S J校（1、2年生個人写真、教職員集合写真、校長、教頭、各クラス担任、専科、看護、事務、用務個人写真）
	午後	中・高S J校（全員）
10/7	午前	小S F校（1年～2年3組個人写真、各クラス担任、専科、看護、事務、用務個人写真）
	午後	中・高S F校（全員）
10/14		小S J校（3～6年生個人写真、卒業生集合写真）
10/21		小S F校（2年4組～6年生個人写真、卒業生集合写真、教職員集合写真、校長、教頭、主幹、教務主任）

※撮影当日に欠席し、撮影できなかった場合は、以下の手順で個人撮影を行い、写真をデジタルファイルにて直接業者へ送付してください。

1. 撮影場所：屋外でも屋内でも結構ですが、フラッシュを使用せずに撮影してください。背景は白、アイボリーまたは明るいグレーの色合いをお願いします。
2. 撮影手順：
 - ① 壁から1メートル離れて立たせてください。
 - ② お腹のあたりから頭の少し上のあたりまでを入れて撮影してください。
 - ③ お持ちのデジタルカメラの最高画質で撮影してください。ファイルサイズは、1MB未満でお願いします。
 - ④ もしカメラ設定でフィルム感度がありましたら、ISO（ASA）は100～200の間でお願いします。
3. 送信：撮影後、デジタルファイルにて下記Eメールアドレスまでお送りください。学校名（SF校、SJ校）、児童・生徒名、学年、クラスのご記入をお忘れなようお願いします。
4. 送り先Eメールアドレス：azusa@ArtTDC.com
To: Mr. Azusa Ono, Total Design Concept

平成19年度高等部生徒募集について

- 9月23日 第1回入学説明会
オープンスクールと説明会
- 12月2日 第2回入学説明会
保護者向け説明会と生徒への説明
- 12月2日 願書配布
- 2月10日 入学試験
- 3月18日 合格通知郵送開始

「やまなみ」はサンフランシスコ日本語補習校理事会により月1回発行されます。

発行人：村山 斉

San Francisco Japanese Language Class, Inc.

760 Market Street, #816, San Francisco, CA 94102

電話：415-989-4535 FAX：415-989-2542

電子メール：理事会・事務局 office@sfjlc.com、学校 sfjlc@msn.com

ホームページ：http://sfjlc.org

理事会および学校事務局へのご意見・ご質問等を歓迎します。匿名でのお問い合わせ等には一切お答えいたしかねます。

無断複製・転載を禁ずる。©2006 All rights reserved.